

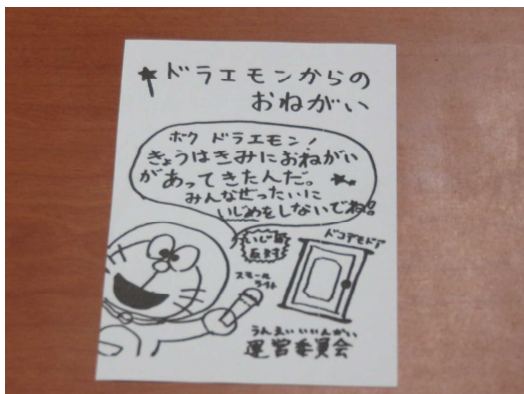
湧水郷

平成28年度 嘉島西小便り
保護者・地域版 NO5
H28.9.29 文責 中野

大好きな学校をめざして～いじめ〇をめざして～

いじめのない学校をめざして学校全体で取り組んでいます。児童会でも継続的に取り組んでくれています。

1学期には「いじめ防止企画パート1」として、運営委員会で給食の時間にいじめに関する本の読み聞かせをしてくださいました。読んでくれた本は、「わたしからありがとう」「そらまめくんのベッド」「ひきとり屋」「ピリーといじわるフレッド」です。



2学期には「いじめ防止企画パート2」として、「ドラえもんからのおねがい」というメッセージカードを全校児童の机の上に、放課後運営委員会の子供たちが置いてくれました。メッセージの内容は、右記のとおりです。

いみいき
じんがよ
めがあう
をしなは
ないたき
でいんだ
ねにお
！ねが

「いじめ防止企画パート3」として、10月3日～11日までの昼休みに、低中高学年ごとに2～3クラスで運営委員会が考えた遊びをする計画が出されました。学級を超えてみんなが仲よく遊んでくれたらいいなと思っています。

学校の方でも、子どもたちと寄り添いながら、子どもの様子を観察したり、教育相談を少なくとも学期に1回は実施したりしています。（教育相談は状況に応じて随時しています）どんなささいな予兆も見逃さず対処するという早期発見・早期対応の姿勢で臨んでいます。また、多くの子どもがいじめの被害のみならず、加害にも巻き込まれている事実立ち、ささいな行為が深刻ないじめへと簡単に燃え広がらない潤いに満ちた風土をつくりだす、「居場所づくり」の取組も行っています。

学校でも十分に留意していますが、気づけない場合もあります。ご家庭でお子様のことで気になることがありましたら、ご連絡ください。

特別支援教育を学校の根幹として NO 3 ～相手を理解しましょう～

「特別支援教育」についてシリーズの3回目です。「すべての子どもにサポート」ということが今の教育の流れのようです。昔は体にハンディがあるとか、目に見えて困っている子どもを中心にサポートすることから始まりました。しかし、子どもを見つめているうちに目に見えないところで困っている子どもが多いことが分かってきました。

これまで、親のしつけ？まだ小さいから？だったら、「怒ってでもしつけなきゃ！」「おおきくなったら分かる！」という考えで育てられてきたように思えます。

しかし、今は「うまく、身の回りのことが処理できないのには、ワケがあり、よくよく子どもたちのことを見つめていたら、「その時子どもたちがどうしていいのか分からないのではないか」、「丁寧に『こうしたらいいよ』とアドバイスをしたりすることで子どもたちはとても生きやすくなる」という考え方がなってきました。そのことがなされないまま育つ中で、「どうせぼく（私）はダメなんだ」と自信をなくし、引きこもってしまったり、反対にやけになって他人を攻撃したりするようになることも少なくありません。

学校はトラブルを体験し解決していく場所です。自分が起こしたトラブル、自分にふりかかったトラブルなどいろいろあると思います。お子様のトラブルをあせらず、しっかり聞いてあげてください。

相手のことをより理解しようとしたとき、トラブルは必ず減ります。「相手を理解すること」にサポートのヒントがあります。そして、お子様のことや学校のことによって困っていることがあれば、担任をはじめ本校の職員（もちろん校長、教頭もです）に相談ください。

その一つのきっかけになればとも思いますが、9月21日付で案内を出していますが、「子育てサロン」を開催します。日時は10月13日（木）の午後5時半から6時半までです。場所は本館2階の学習ルーム1です。気軽にご参加ください。

なお、「子育てサロン」は毎月基本的に第2木曜日の午後5時半から6時半に今後も実施していく予定です。

